



宮城県さけます増殖協会  
設立40周年記念誌

守り育てよう  
**宮城のサケマス**

宮城県さけます増殖協会



## CONTENTS

## もくじ

|                |    |
|----------------|----|
| ご挨拶            | 1  |
| 祝辞             | 2  |
| 協会組織図及び所在地     | 3  |
| 沿革             | 4  |
| 主な事業           | 6  |
| さけます増殖事業のしくみ   | 7  |
| 水揚げ協力金の一元管理    | 8  |
| 県内ふ化場の沿革       | 9  |
| 北部地区           | 9  |
| 中部地区           | 10 |
| 南部地区           | 13 |
| 宮城県増殖河川・ふ化場配置図 | 16 |
| 大震災からの復興       | 17 |
| 東日本大震災の発生      | 17 |
| 県内ふ化場の被災状況     | 18 |
| 復興事業の活用状況      | 19 |
| 県内ふ化場の復興状況     | 20 |

## 設立40周年に当たって



宮城県さけます増殖協会  
会長理事 高橋 長 偉

宮城県さけます増殖協会の設立40周年に当たり、当協会事業の推進に対する本協会会員各位並びに関係団体の御理解と御協力に深く感謝申し上げます。

本協会は、昭和52年の国連海洋法条約の制定に伴い、我が国さけます資源の造成が緊急かつ重要な課題となり、県内の内水面漁業と海面漁業が一体となってさけます増殖事業を展開していくための推進母体として設立されました。

この結果、事業開始前の昭和52年度には僅か4万5千尾だった秋さけ沿岸来遊尾数は、平成4年度には目標であった200万尾に、平成20年度にはこれまで最高の340万尾となり、水揚げ金額も35億円を超え、秋期の漁船漁業の重要な対象魚種として定着することができました。

このことは、「つくり育てる漁業」（資源管理型漁業）の先陣として秋さけ増殖事業に官民一体となって関係者が取り組み、その弛まぬ努力が結実したものであると認識しております。

一方、平成23年の東日本大震災により、本県沿岸部のさけ増殖関連施設は壊滅的な被害を受け、8年が経過した現在でも復旧に向けた努力と支援は未だに続いていますが、放流尾数は被災前の水準に届いておらず、沿岸来遊尾数も海洋環境の変化の影響を受け低迷しております。

また、本県のふ化放流団体を取り巻く状況は厳しく、経営状況の改善をはじめ、築30年以上を経過したふ化施設の老朽化や後継者の確保等が喫緊の課題となっております。

このような中、平成29年度には「宮城県さけます増殖振興プラン」が策定されました。持続的かつ安定的な秋さけ資源の造成のため、種苗の質や放流方法の改善等に段階的に取り組み、最終的には6千万尾の稚魚放流、240万尾の回帰、23億円の水揚げを目標に掲げており、その目標の実現に向かって引き続き取り組んで参ります。

本協会といたしましては、平成29年に設立された「全国さけ・ます増殖振興会」とも連携をとり、会員各位及び関係団体がこれまで築いてきた実績を踏まえ、関係機関の御指導と御協力の下、今後も「川」と「海」の連携を一層強化し、宮城県の秋さけ増殖事業の充実、発展に努めて参ります。





お祝いの言葉

宮城県知事 村 井 嘉 浩

宮城県さけます増殖協会の設立40周年に当たり、心からお祝い申し上げます。

本県の秋さけ資源は、沿岸漁業を支える重要な魚種であるとともに、古くから郷土の食文化の中で親しまれてきた重要な食材であります。これまで、40年にわたりさけます増殖事業に尽力され、秋さけ資源の維持増大に多大なる貢献をいただきました皆様に対しまして、心より感謝申し上げますとともに、深く敬意を表します。

東日本大震災により、県内の多くのふ化場は甚大な被害を受け、飼育されていたさけ稚魚も多くが失われましたが、被災直後からふ化場関係者の皆様が復旧に強い思いで取り組んでこられた結果、多くのふ化場の復旧が着実に進んでおります。一方で、未だ復旧途上のふ化場もあり、放流数は震災前の水準に達しておりません。また、近年の全国的な不漁と相まって、本県の秋さけ来遊数は低迷が続く等、厳しい状況が続いております。

このような中、皆様におかれましては、親魚を最大限に活用して種卵を確保するとともに、各ふ化場が連携して種卵や稚魚の移出入を行うなど大変な御努力を重ねてこれ、その結果、目標とする放流尾数が概ね確保されていることに対しまして、あらためて感謝申し上げます。

さて、県では、より機動的に一次産業の競争力強化を推し進めるため、今年4月から農林水産部を農政部と水産林政部に再編いたしました。さけます増殖事業につきましても、平成29年度に策定した「宮城県さけます増殖プラン」により、生産体制の復旧とともに、持続的かつ安定的な秋さけ資源の利用と増殖事業の実施体制の構築に取り組んでおります。また、来年開催される第40回全国豊かな海づくり大会宮城県大会に向けて、さけ稚魚の記念リレー放流などを通じて、さけ増殖の取り組みを広く県民に周知してまいりたいと考えておりますので、貴協会並びに会員各位におかれましては、御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴協会におかれましては、今後ともさけます増殖事業の充実、発展に努められ、内水面漁業と海面漁業の連携強化をより一層進められますようお願い申し上げますとともに、貴協会の益々の御発展と会員各位の御健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

宮城県さけます増殖協会組織図



各水系さけます増殖協会の所在地

| 協 会 名                                  | 所 在 地                         | T E L                    |
|----------------------------------------|-------------------------------|--------------------------|
| 気仙沼市大川水系さけます増殖協会<br>(気仙沼市産業部水産課漁業振興係内) | 〒988-8501 気仙沼市八日町1丁目1番1号      | 0226-22-6600<br>(内線513)  |
| 本吉町小泉川水系さけます増殖協会<br>(気仙沼市本吉総合支所産業課内)   | 〒988-0393 気仙沼市本吉町津谷館岡10番地     | 0226-42-2976             |
| 志津川湾水系さけます増殖協会<br>(宮城県漁業協同組合志津川支所内)    | 〒986-0717 本吉郡南三陸町志津川字大森町86番地9 | 0226-46-2800             |
| 北上川水系さけ・ます増殖協会<br>(石巻市産業部水産課内)         | 〒986-8501 石巻市穀町14番1号          | 0225-95-1111<br>(内線3519) |
| 追波川水系さけます増殖協会<br>(石巻市雄勝総合支所地域振興課内)     | 〒986-1332 石巻市雄勝町小島字和田18-13    | 0225-57-2111             |
| 鮫浦湾鮭鱒増殖協会<br>(宮城県漁業協同組合谷川支所内)          | 〒986-2402 石巻市谷川浜字中井道13-4      | 0225-48-2065             |
| 鳴瀬川水系さけます増殖協会<br>(東松島市産業部農林水産課内)       | 〒981-0303 東松島市小野字新宮前5番地       | 0225-82-1111<br>(内線2136) |
| 広瀬・名取川水系さけます増殖協会<br>(名取市生活経済部農林水産課内)   | 〒981-1292 名取市増田字柳田80番地        | 022-724-7151             |
| 阿武隈川水系さけます増殖協会<br>(亘理町農林水産課内)          | 〒989-2393 亘理郡亘理町字下小路7番地4      | 0223-34-0503             |



宮城県さけます増殖協会設立40周年の歩み

| 年 次            | 主 な 事 項                                                                                                                    |
|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 昭和52年<br>2月20日 | 設立総会開催。初代会長に大槻七郎副知事就任。<br>稚魚海中飼育放流事業が始まる。<br>稚魚放流尾数14,669千尾、沿岸来遊尾数46千尾。                                                    |
| 昭和53年度         | 受益者負担による協力金制度が実現。<br>広報事業（啓蒙普及）、増殖体制強化指導事業（ふ化場等補助事業・各種研修会）、密漁防止対策事業など、各種事業を本格展開。                                           |
| 昭和54年度         | 親魚遡上保護のための一斉網揚げ協力を開始。                                                                                                      |
| 昭和55年度         | 網揚げ協力の完全実施。一部で海産親魚提供も開始。<br>県政映画「さけの旅立ち」の製作に協力。                                                                            |
| 昭和56年度         | 第2代会長に津軽芳三郎副知事が就任。飼育技術一覧を作成・配布。                                                                                            |
| 昭和57年度         | 小中学生対象のパンフレットを作成・配布。                                                                                                       |
| 昭和58年度         | 稚魚放流尾数が50,000千尾を突破。<br>海産親魚の提供と網揚げ協力が拡大。<br>第13回本州鮭鱒増殖振興会通常総会を松島町で開催。                                                      |
| 昭和59年度         | 沿岸来遊尾数が500千尾を突破。<br>ふ化放流事業手引書を作成、ふ化団体に配布。                                                                                  |
| 昭和60年度         | 北中部地区7水系協会の水揚げ協力金を2％から3％にアップ。<br>魚市場の水揚げ協力金徴収事務へ助成を開始。                                                                     |
| 昭和61年度         | 稚魚放流尾数が60,000千尾を突破。<br>秋さけ資源管理調整部会を設置、他県の延縄漁業問題に取り組む。<br>中部4水系協会による「中部地区さけます増殖振興会」が発足。                                     |
| 昭和62年度         | 沿岸来遊尾数が1,000千尾を突破。さけ沿岸来遊予測が開始される。<br>小中学生対象のパンフレット「宮城のさけ・ます」を作成。<br>秋さけ漁業調整対策事業による親魚標識放流調査が開始される。                          |
| 昭和63年度         | 協会設立10周年記念式典を開催。<br>第3代会長に吉田弘正副知事が就任。                                                                                      |
| 平成元年           | 第4代会長に川崎正信副知事が就任。<br>海中飼育事業が9ヶ所に拡大。                                                                                        |
| 平成3年度          | 中部地区4水系の水揚げ協力金が3％から5％にアップ。<br>稚魚放流尾数が70,000千尾を突破。<br>第5代会長に蒲谷亮一副知事が就任。                                                     |
| 平成4年度          | 沿岸来遊尾数が2,300千尾に達し、宮城県さけます増殖事業振興計画（昭和53年度策定）の目標来遊尾数を初めて達成。水揚げ金額も36億円を記録した。<br>第6代会長に八木功副知事が就任。<br>第22回本州鮭鱒増殖振興会通常総会を松島町で開催。 |
| 平成5年度          | 南部地区2水系並びに沖合底びき網漁船の水揚げ協力金が、定額から3％の定率協力に変更。<br>稚魚放流尾数が70,500千尾に達する（過去最高）。<br>第7代会長に小野寺完夫副知事が就任。                             |
| 平成6年度          | 全国的な不漁傾向の中、本県来遊尾数も879千尾と前年比38％にとどまる。                                                                                       |
| 平成7年度          | 沿岸来遊尾数が2,640千尾を記録（史上最高）。<br>秋さけふ化放流事業安定対策検討部会・同地区部会を設置し、新たなふ化放流体制の在り方について具体的検討を開始。                                         |
| 平成8年度          | 中部地区4水系に続き、北部3水系の水揚げ協力金が5％にアップ。水揚げ協力金、定置網網揚げ協力について、秋さけふ化放流事業安定対策検討部会による協議が本格化。<br>第8代会長に丹野諒二副知事が就任。                        |

| 年 次    | 主 な 事 項                                                                                                                                                |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 平成9年度  | 南部地区2水系並びに沖合底びき網の水揚げ協力金が5％にアップし、初めて全県統一した協力金体制となる。定置網の網揚げ協力の負担軽減のための新たな手法として、垣網5割カット・水揚げしたさけの全額換金協力が一部で施行。<br>設立20周年記念式典を開催。                           |
| 平成11年度 | 第9代会長に松木伸一郎副知事が就任。                                                                                                                                     |
| 平成12年度 | 種卵の購入に対し、補助を開始。                                                                                                                                        |
| 平成13年度 | 水揚げ協力金の内、2％相当額を県増殖協会が一元管理し、各水系協会に対してふ化団体数及び放流尾数に応じて再配分する制度を開始。                                                                                         |
| 平成14年度 | 5年ぶりに沿岸来遊尾数が200万尾を超える（2,302千尾）。                                                                                                                        |
| 平成15年度 | 秋さけふ化放流事業安定対策検討部会が再開され、網揚げの実施体制の在り方等が検討される。<br>第10代会長に柿崎征英副知事が就任。                                                                                      |
| 平成16年度 | 沿岸来遊尾数が安定し、河川での親魚確保が順調に推移していることから、定置網を対象に網揚げの休止が試行される。                                                                                                 |
| 平成17年度 | 第11代会長に三浦秀一副知事が就任。<br>水揚げ協力金を7％にアップ。                                                                                                                   |
| 平成18年度 | 第12代会長に高橋長偉宮城県内水面漁業協同組合連合会代表理事会長が就任。<br>平成27年度までの10ヶ年のさけ増殖事業基本計画となる「新さけます増殖プラン」が策定される。<br>定置網に加えて刺網の網揚げ休止が実施される。<br>県増殖協会の規約が改正され、会計年度が5月から翌年の4月までとなる。 |
| 平成19年度 | 海面からの水協協力金により各水系協会が実施したふ化場整備、ふ化機器等に1,000万円を超える補助を行う。                                                                                                   |
| 平成20年度 | 沿岸漁獲数が300万尾を超え、さけ水揚げ金額も35億円に達する。                                                                                                                       |
| 平成21年度 | 前年に続き、沿岸漁獲数が300万尾を超える。                                                                                                                                 |
| 平成22年度 | 平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、本県さけ増殖施設は沿岸部を中心に甚大な被害を受ける。                                                                                                    |
| 平成23年度 | 震災復興関連事業等を活用し、震災翌年にも関わらず、全県で4千5百万尾以上の稚魚を放流する。                                                                                                          |
| 平成24年度 | 事務局委託先が名称変更により財団法人宮城県水産公社から公益財団法人宮城県水産振興協会になる。                                                                                                         |
| 平成25年度 |                                                                                                                                                        |
| 平成26年度 | 震災により種卵確保が困難なふ化場に対し、当協会独自の種卵確保対策事業を開始した。広域組織の本州鮭鱒増殖振興会に入会する。                                                                                           |
| 平成27年度 | 平成27年9月に発生した大雨被害に対して当協会独自の緊急支援を行う。                                                                                                                     |
| 平成28年度 | 本州鮭鱒増殖振興会に北海道さけ・ます増殖事業協会が加入し、全国さけ・ます増殖振興会が発足した。<br>平成28年12月に自由民主党さけ・ます増殖推進議員連盟が北・中部のふ化場を視察し、意見交換を行った。                                                  |
| 平成29年度 | 10ヵ年のさけ増殖事業基本計画となる新たな「宮城県さけます増殖振興プラン」が策定される。                                                                                                           |
| 平成30年度 | さけ増殖事業の取り組みを広報するため、パネルを作成するとともに小中学生対象のパンフレットを改定・配布した。                                                                                                  |



## 主な事業

### 1. 広報事業

さけます増殖事業に対する県民の皆さんの理解を得るため、ホームページを開設し、事業の重要性及び事業の内容等を紹介しています。

### 2. ふ化場施設整備事業

地域のさけ放流の拠点となるふ化場の施設整備に対して補助を行います。

### 3. 増殖事業体制強化指導事業

各河川の水系協会が実施する事業に対して助成を行います。

- ① 増殖事業従事者研修
- ② ふ化機器等整備事業
- ③ ふ化場等整備事業（既存ふ化場の補修等）
- ④ 種卵・種苗の購入に要する経費
- ⑤ 密漁防止対策等

### 4. 地域振興活用事業

秋さけを活用した地域振興方策を実施する上で必要となる経費の補助を行います。

### 5. 水揚げ協力金徴収業務

産地魚市場の水揚げ協力金徴収事務に対する助成を行います。

### 6. 秋さけ資源の管理及びその利用に関する調整

水産庁が主催する「全国秋さけ資源管理調整協議会」及び「同太平洋部会」等において、さけ増殖団体の立場から意見を述べ情報交換を行い、全国的な調整に協力しています。

### 7. さけます増殖事業推進交流会

ふ化場担当者と海面漁業者が一堂に会して情報や意見の交換を行い、増殖事業への理解と協力を深めるために交流会を開催しています。

### 8. 防疫対策事業

健康な稚魚を放流するため、病気を防止するための薬品をふ化場に配布しています。

### 9. 秋さけふ化放流事業安定対策検討部会

ふ化場放流事業の安定化を図るため、受益者負担体制の強化やふ化団体、水系協会の運営体制等、秋さけふ化放流事業のあり方についての検討会を開催しています。

### 10. 技術研修会の開催

ふ化場担当者の技術向上を図るため、採卵から飼育管理技術に関する研修会を開催します。

### 11. ふ化放流事業安定対策等

- ① 一元管理金の配分・管理
- ② さけ稚魚買上事業等

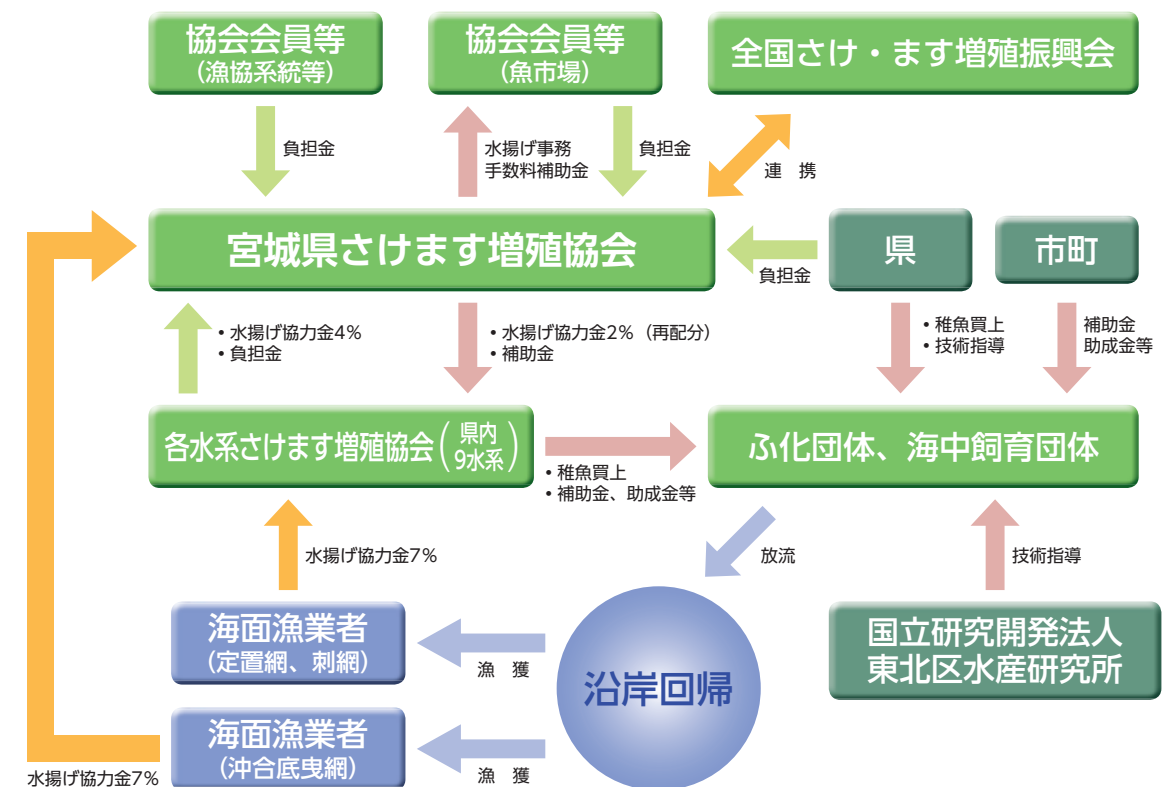
### 12. 全国さけ・ます増殖振興会による事業

- ① 会費徴収納入依頼
- ② 放流体制緊急転換調査事業
- ③ 放流体制緊急転換協議会の開催
- ④ さけ稚魚用飼料斡旋

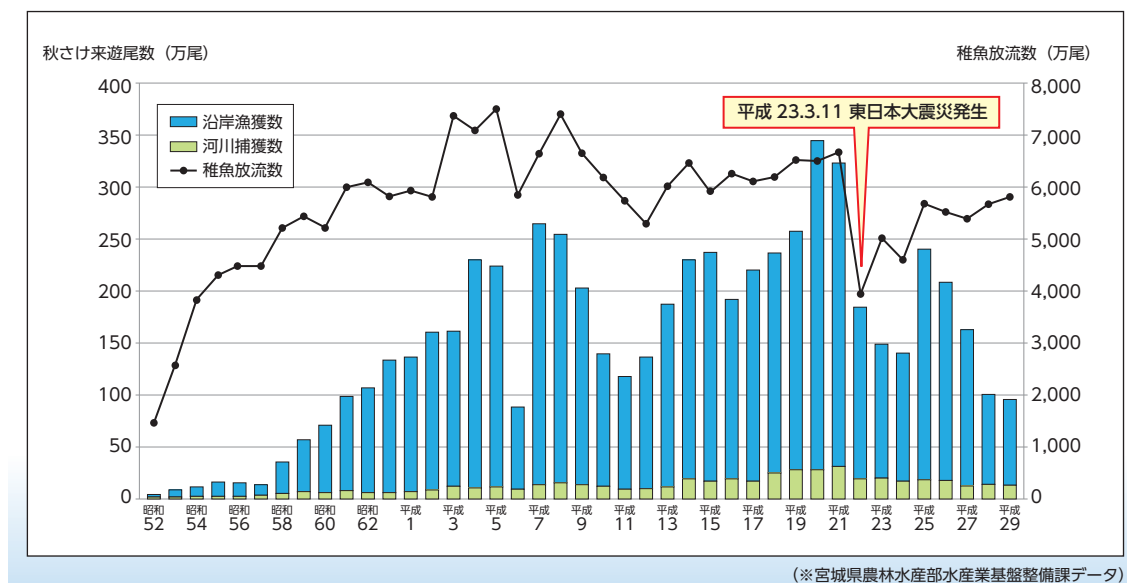


協谷閘門

## さけます増殖事業のしくみ



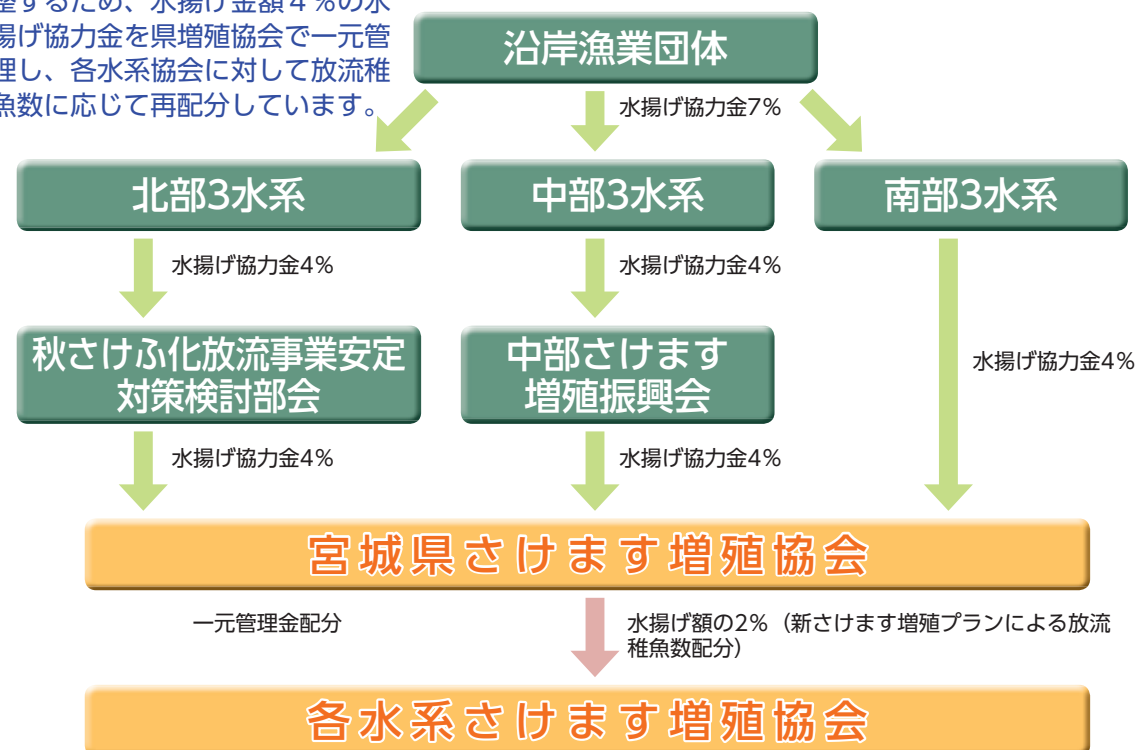
## 沿岸来遊尾数と稚魚放流尾数の推移



## 水揚げ協力金の一元管理

秋さけは北から南下することから、その水揚げ量や漁獲は地域によって偏りが生じ、水揚げ協力金の徴収にも地域間に偏りが生じていたことから、当協会では平成13年度より水揚げ協力金の内、2%を各水系協会から徴収し、水揚げ協力金の偏りを是正するための再配分を行いました。また、平成17年度から、本県のさけ資源を将来的に維持していくための取り組みを強化する目的で、水揚げ額協力金の負担率を7%とし、一元管理金も2%から4%に引き上げました。一元管理金の半分は地区別の放流割合（宮城県で策定した新さけます増殖プランによる）に応じて各水系さけます増殖協会に再配分し、残り半分は宮城県さけます増殖協会が各水系さけます増殖協会等を対象に実施する補助事業やふ化場施設更新のための積立金に充てています。

地区による水揚げ協力金の差を調整するため、水揚げ金額4%の水揚げ協力金を県増殖協会にて一元管理し、各水系協会に対して放流稚魚数に応じて再配分しています。



新北上川右岸



大川右岸

## 県内ふ化場の沿革 北部地区

### 気仙沼市大川水系さけます増殖協会



#### 気仙沼鮭漁業生産組合

代表理事組合長 菅野 幸一  
 施設名 気仙沼大川さけ人工ふ化場  
 ふ化場責任者 昆野 恵市  
 作業従事者数 14名  
 採捕親魚数 16,106尾  
 採卵数 10,932千粒  
 放流数 8,820千尾  
 ※採捕親魚数、採卵数、放流数は平成28～30年度の平均、以下同様

#### ふ化場の沿革

大正3年に大川鮭繁殖組合が八瀬川にふ化場を設置し事業を開始。その後、移転を繰り返し、昭和14年に本町地区に移転・新設。昭和41年に気仙沼鮭漁業生産組合に改組。同年、館山地区に移転・新設。  
 平成9年に気仙沼市柳沢地区に現ふ化場を新設・移転。平成23年の東日本大震災では採捕場で床上浸水の被害を受け、その後改修。

### 本吉町小泉川水系さけます増殖協会



#### 小泉川鮭増殖組合

組合長 及川 安五郎  
 施設名 本吉町小泉川さけふ化場  
 ふ化場責任者 及川 信勝  
 作業従事者数 5名  
 採捕親魚数 12,082尾  
 採卵数 10,783千粒  
 放流数 8,516千尾

#### ふ化場の沿革

明治8年以降、村営により増殖事業を開始。明治34年に宮城県がふ化場を創設。昭和30年から、さけ増殖組合経営となる。昭和54年度に蕨野にふ化場を新設、さらに昭和61年度以降、圃の沢に仮設ふ化場を設置する。  
 平成9年に本吉町が圃の沢にふ化場を新設し全面移転。  
 平成23年に東日本大震災の被害を受けた施設を応急復旧。  
 平成27年に管理棟が完成し、震災にかかる復旧完了。  
 事業は小泉川鮭増殖組合が行っている。



## 志津川湾水系さけます増殖協会



### 南三陸町

|        |                        |
|--------|------------------------|
| 町長     | 佐藤 仁                   |
| 施設名    | 南三陸町小森ふ化場<br>南三陸町水尻ふ化場 |
| ふ化場責任者 | 千葉 純一                  |
| 作業従事者数 | 11名                    |
| 採捕親魚数  | 1,669尾                 |
| 採卵数    | 2,391千粒                |
| 放流数    | 6,973千尾                |

### ふ化場の沿革

大正5年に志津川町が民家を借り上げ、ふ化場として事業が開始された。  
昭和2年に水尻川に町がふ化場を設置し、宮城県に寄付。昭和13年に県営から町営になり、未利用河川開発として、八幡川においてさけ増殖事業が実施された。昭和53年には町が八幡川に施設を新設、昭和62年には第2稚魚池を水尻川に新設した。  
平成23年の東日本大震災により被災し、2箇所のふ化場が壊滅。水尻川ふ化場のみ応急復旧し、平成29年に復旧完了。  
被災した小森ふ化場は平成27年に復旧完了。

## 中部地区

## 北上川水系さけ・ます増殖協会



### 北上川漁業協同組合

|         |          |
|---------|----------|
| 代表理事組合長 | 三浦 哲太郎   |
| 施設名     | 北上川大嶺ふ化場 |
| ふ化場責任者  | 高橋 寿幸    |
| 作業従事者数  | 29名      |
| 採捕親魚数   | 36,268尾  |
| 採卵数     | 14,042千粒 |
| 放流数     | 5,772千尾  |

### ふ化場の沿革

昭和2年に米谷町がふ化場を設置し、宮城県に寄付。その後、昭和31年に宮城県から米谷町に無償譲渡され、同町が北上川漁協に無償貸与し、組合運営となる。昭和33年の移転を経て、昭和52年に米谷町内の現地に新設・移転。  
平成28年に国庫補助事業「産地水産業強化支援事業」を活用して、ふ化場新設工事を着工。平成29年2月に完成し、同年10月より稼働。



### 迫川漁業協同組合

|         |               |
|---------|---------------|
| 代表理事組合長 | 工藤 健          |
| 施設名     | 栗原市築館さけ・ますふ化場 |
| ふ化場責任者  | 菅原 登喜夫        |
| 作業従事者数  | 24名           |
| 採捕親魚数   | 12,408尾       |
| 採卵数     | 4,624千粒       |
| 放流数     | 3,261千尾       |

### ふ化場の沿革

昭和52年から迫川漁業協同組合が一迫川でさけ親魚を採捕し、受精卵を江合川漁業協同組合へ委託飼育した稚魚を一迫川へ放流する形式でふ化放流事業を開始した。  
昭和55年度には旧築館町が「築館町さけ・ますふ化場」を新設し、事業運営主体を迫川漁業協同組合としてふ化放流事業を実施し、現在に至る。  
平成17年4月1日に町村合併により「栗原市築館さけ・ますふ化場」と改称した。



### 江合川漁業協同組合

|         |            |
|---------|------------|
| 代表理事組合長 | 佐藤 仁一      |
| 施設名     | 江合川漁協さけふ化場 |
| ふ化場責任者  | 佐藤 正       |
| 作業従事者数  | 51名        |
| 採捕親魚数   | 15,276尾    |
| 採卵数     | 8,468千粒    |
| 放流数     | 5,818千尾    |

### ふ化場の沿革

昭和43年に岩出山町欠下に第一ふ化場を新設して事業を開始。昭和53年に第二ふ化場を新設。  
平成15年に第一ふ化場を解体後、平成22年、岩出山に現施設を新設し、新たに井戸も増設。翌平成23年に第二ふ化場を解体。



## 追波川水系さけます増殖協会



### 北上追波漁業協同組合

代表理事組合長 勝又 二郎  
 施設名 北上追波漁協合戦谷  
 ふ化場  
 ふ化場責任者 石山 潔  
 作業従事者数 6名  
 採捕親魚数 8,957尾  
 採卵数 4,348千粒  
 放流数 4,389千尾

#### ふ化場の沿革

昭和35年、旧河北町二俣に施設が設置される。昭和48年、旧河北町皿貝に新施設を整備し移転。

昭和52年の旧河北町飯野川、旧北上町女川による仮運営を経て、昭和55年に旧河北町前山下に合戦谷ふ化場を新設。

### 石巻市



市長 亀山 紘  
 施設名 大原川さけ人工ふ化場  
 ふ化場責任者 高橋 遼  
 作業従事者数 3名  
 採捕親魚数 144尾  
 採卵数 161千粒  
 放流数 1,590千尾

#### ふ化場の沿革

昭和50年に未利用河川開発として大原川にて簡易水槽によるふ化放流事業を開始。昭和52年に雄勝町が現ふ化場を新設。

平成23年に東日本大震災で施設が全壊流失した。平成24年に施設を応急復旧。

平成30年に施設の復旧工事を開始、令和元年度に施設完成予定。

## 鮫浦湾鮭鱒増殖協会



### 宮城県漁業協同組合谷川支所

運営委員長 安住 留次郎  
 施設名 後川さけ人工ふ化場  
 ふ化場責任者 今野 昭彦  
 作業従事者数 16名  
 採捕親魚数 〓尾  
 採卵数 〓千粒  
 放流数 3,000千尾

#### ふ化場の沿革

和53年に旧牡鹿町が現ふ化場を新設し事業を開始。その後、宮城県漁業協同組合谷川支所により、事業が運営されている。

平成23年の東日本大震災で施設が全壊流失した。平成30年より現施設の復旧を開始し、令和元年度に事業再開見込みとなっている。

## 南部地区

## 鳴瀬川水系さけます増殖協会



### 鳴瀬吉田川鮭増殖組合

組合長 高橋 正幸  
 施設名 石神さけふ化場  
 沢渡ふ化場  
 石神ふ化場責任者 早坂 俊三  
 作業従事者数 15名  
 沢渡ふ化場責任者 高橋 弘己  
 作業従事者数 9名  
 採捕親魚数 11,485尾  
 採卵数 4,868千粒  
 放流数 4,096千尾



#### ふ化場の沿革

##### ●石神ふ化場

昭和5年に加美郡漁業協同組合が宮崎町に施設を建設。戦時中断後、昭和24年にさけ増殖組合を結成し、旧小野田町に施設を建設。昭和27年に鳴瀬吉田川漁協が設立され、昭和39年に現在地に施設を新設、その後、昭和53年飼育池が増設される。平成3年に鳴瀬吉田川鮭生産組合が結成され、増殖事業が継続される。同生産組合は平成5年に鳴瀬吉田川鮭増殖組合に改名され、現在に至る。

##### ●沢渡ふ化場

昭和27年に鳴瀬吉田川漁協吉田支部が現在地に施設を建設し、鳴瀬川支流の吉田川を担当。平成3年に鳴瀬吉田川鮭生産組合（平成5年に鳴瀬吉田川鮭増殖組合に改名）が結成され、増殖事業が継続される。平成11年に現施設が新築された。



## 《 広瀬・名取川水系さけます増殖協会 》



### 広瀬名取川漁業協同組合

代表理事組合長 金子 賢司  
 施設名 郡山ふ化場  
 ふ化場責任者 穴戸 宗  
 作業従事者数 55名  
 採捕親魚数 5,615尾  
 採卵数 1,249千粒  
 放流数 635千尾

#### ふ化場の沿革

明治23年に宮城郡漁業協同組合が旧宮城郡七北田村にふ化場を建設し事業開始。明治38年に宮城県水産試験場へ移管、昭和6年に漁協へ移管後、昭和27年に仙台市太白区中田1丁目に旧ふ化場があったが旧4号線の工事に伴い、昭和53年に仙台市太白区郡山に現ふ化場が移転となった。

## 《 阿武隈川水系さけます増殖協会 》



### 宮城県漁業協同組合亘理支所

運営委員長 菊地 幹彦  
 施設名 宮城県漁協亘理支所  
           さけふ化場  
 ふ化場責任者 渡辺 敏明  
 作業従事者数 44名  
 採捕親魚数 8,179尾  
 採卵数 1,411千粒  
 放流数 2,323千尾

#### ふ化場の沿革

飼育委託による放流を行っていたが、昭和53年角田市に現ふ化場を新設。平成2年の河川堤防工事に伴い、飼育池の移設を経て現在に至る。

### 白石川漁業協同組合



組合長 十二村 實  
 施設名 白石川漁協さけふ化場  
 ふ化場責任者 武田 雄二  
 作業従事者数 20名  
 採捕親魚数 2,262尾  
 採卵数 421千粒  
 放流数 395千尾

#### ふ化場の沿革

白石川において、長年にわたる川底の整地を行い、親魚を捕獲し、受精卵を直接放流していたが、昭和43年から組合員宅の蓄養池を利用した飼育や、民間養魚場への飼育委託等により放流していた。

平成2年に現ふ化場を新設し本格的に事業を開始。平成12年に飼育池を増設し、平成15年に飼育池を改築。

### 阿武隈川漁業協同組合



代表理事組合長 手塚 政宏  
 施設名 丸森さけふ化場  
 ふ化場責任者 大谷 貞雄  
 作業従事者数 15名  
 採捕親魚数 2,662尾  
 採卵数 941千粒  
 放流数 422千尾

#### ふ化場の沿革

明治31年に丸森町が施設を設置し事業を開始。

昭和3年に現施設を丸森町が建設、宮城県に寄付し宮城県水産試験場阿武隈川鮭ふ化場となる。昭和31年に無償譲渡を受けた丸森町より、阿武隈川漁業協同組合に無償貸与。同漁協は荒浜鮭繁殖組合と協力して事業を実施。昭和34年に丸森町に返却され、町営魚族ふ化場として事業を継続。昭和46年に施設及びその運営を再び同漁協に全面移管。昭和53年に飼育池のみ改修（建物は昭和3年当時のもの）。

平成18年に増殖設備の老朽化により事業停止。平成20年にふ化場を再建し、ふ化事業を再開。平成25年2月の大雪により施設が倒壊、その後施設と設備を改修し、現在に至る。



## 宮城県増殖河川・ふ化場配置図



- |                    |                        |
|--------------------|------------------------|
| 1 気仙沼大川さけふ化場       | 9 栗原市築館さけ・ますふ化場        |
| 2 本吉町小泉川さけふ化場      | 10 江合川ふ化場              |
| 3 南三陸町小森ふ化場        | 11 鳴瀬吉田川さけ増殖組合鳴瀬川石神ふ化場 |
| 4 南三陸町水尻ふ化場        | 12 鳴瀬吉田川さけ増殖組合吉田川沢渡ふ化場 |
| 5 石巻市大原川さけ人工ふ化場    | 13 広瀬名取川漁協郡山さけふ化場      |
| 6 石巻市後川さけます人工増殖ふ化場 | 14 宮城県漁協巨理支所さけふ化場      |
| 7 北上川大嶺さけふ化場       | 15 白石川漁協さけふ化場          |
| 8 北上追波漁協合戦谷さけふ化場   | 16 阿武隈川漁協丸森町さけふ化場      |

## 東日本大震災の発生

### 1. 地震の概況

- ①発生日時 平成23年3月11日（金）14時46分頃
- ②震央地名 三陸沖（北緯38.1度、東経142.5度 牡鹿半島の東約130km）
- ③震源の深さ 約24km
- ④規模 マグニチュード9.0
- ⑤最大震度 震度7（栗原市）
- ⑥津波8.6m以上（石巻市鮎川）津波計等による津波の最大の高さ  
（平成23年6月3日気象庁発表）
- ※最大で内陸5kmまで津波が到達
- ※県面積の約4.5%に当たる327km<sup>2</sup>が浸水

### 2. 水産関係被害額の状況（推計による概算）

●水産業関連被害額 **6,804億円**（H25. 4月現在）  
（水産加工関係被害を含む **8,728億円**）

#### 漁港施設

- ・漁港施設、海岸保全施設等の損壊等 [被害額：約**4,386億円**]

#### 漁船等

- ・20t未満の漁船（12,005隻）の大破、滅失等 [被害額：約**1,022億円**]
- ・20t以上の漁船（18隻）の大破等 [被害額：約**107億円**]

#### 水産物等

- ・ノリ、ワカメ、カキ、ホタテ、ホヤ、ギンザケ等の流失等 [被害額：約**332億円**]

#### 養殖施設

- ・養殖施設の損壊、滅失 [被害額：約**282億円**]

#### 水産施設

- ・共同利用施設、流通加工施設等の損壊等 [被害額：約**482億円**]

#### 漁業用資材

- ・定置網、養殖用資機材（乾燥機等）の損壊、滅失 [被害額：約**193億円**]

#### （水産加工関係）

- （・水産加工場、冷凍冷蔵庫等の損壊、滅失 [被害額：約**1,924億円**]



県内ふ化場の被災状況

※平成23年5月に独立行政法人水産総合研究センターと共同で現地調査を実施

①壊滅状態のふ化場（8ふ化場）

小泉川、南三陸町小森、水尻、水戸辺第1、第2、大原川、女川町、後川  
※現状のままでは増殖事業の実施は不可能

②被害なしあるいは比較的軽微な被害のふ化場（11ふ化場）

大川、北上、迫川、江合、北上追波、沢渡、石神、広瀬名取、亘理、丸森、白石  
※地震等により、ふ化場施設や親魚採捕場等に大小の被害がある

| ふ化場名                 | 被害状況 | 被災状況（○被害なし △軽微 ×壊滅 ー元々実施なし） |            |      |            |        |
|----------------------|------|-----------------------------|------------|------|------------|--------|
|                      |      | 親魚採捕場                       | 取水施設       | ふ化施設 | 飼育池        | 海中飼育施設 |
| 気仙沼鮭<br>大川さけふ化場      | △    | 番屋破損<br>船流出                 | 流量計等<br>破損 | ○    | ○          | ×      |
| 本吉町小泉川<br>さけふ化場      | ×    | ×                           | ×          | ×    | 土砂等で<br>埋没 | ー      |
| 南三陸町宮小森<br>さけふ化場     | ×    | ×                           | ×          | ×    | 土砂等で<br>埋没 | ×      |
| 南三陸町宮水尻<br>さけふ化場     | ×    | ×                           | ×          |      | 土砂等で<br>埋没 |        |
| 水戸辺第1<br>さけふ化場       | ×    | ×                           | ×          | ×    | 土砂等で<br>埋没 | ×      |
| 水戸辺第2<br>さけふ化場       | ×    |                             | ×          |      | ×          |        |
| 北上川大嶺<br>さけふ化場       | ○    | ○                           | ○          | ○    | ○          | ー      |
| 栗原市築館<br>さけ・ますふ化場    | ○    | ○                           | ○          | ○    | ○          | ー      |
| 江合川<br>さけふ化場         | ○    | ○                           | ○          | ○    | ○          | ー      |
| 北上追波漁協<br>合戦谷さけふ化場   | △    | ○                           | 配水槽破損      | ○    | ○          | ー      |
| 石巻市大原川<br>さけ人工ふ化場    | ×    | ×                           | ×          | ×    | 土砂等で<br>埋没 | ー      |
| 女川町さけ<br>ますふ化場       | ×    | ×                           | ×          | ×    | 土砂等で<br>埋没 | ー      |
| 石巻市後川さけます<br>人工増殖ふ化場 | ×    | ×                           | ×          | ×    | ×          | ー      |
| 鳴瀬吉田川<br>沢渡ふ化場       | △    | ○                           | 配管等破損      | ○    | ○          | ー      |
| 鳴瀬吉田川<br>石神ふ化場       | △    | ○                           | 配管等破損      | ○    | ○          | ×      |
| 広瀬名取川漁協<br>郡山さけふ化場   | △    | 番屋破損                        | ○          | ○    | ○          | ー      |
| 宮城県漁協亘理<br>支所さけふ化場   | ○    | ○                           | ○          | ○    | ○          | ー      |
| 阿武隈川漁協<br>丸森町さけふ化場   | ○    | ○                           | ○          | ○    | ○          | ー      |
| 白石川漁業協同<br>組合さけふ化場   | △    | ○                           | ○          | ○    | 飼育池破損      | ー      |

さけふ化場における復興事業の活用状況

1. 施設復旧

県水産業基盤整備課調べ 単位：千円

| 区分  | ふ化場名<br>(水系名) | 事業名・内容                                          | 事業年度         | 実施<br>時期          | 事業費    | 国費     |
|-----|---------------|-------------------------------------------------|--------------|-------------------|--------|--------|
| ふ化場 | 気仙沼<br>大川     | ●さけ・ます生産地震災復旧支援緊急事業（水産庁）<br>ふ化場、親魚採捕・採卵小屋の修繕整備等 | H23年度        | H23.8~<br>H24.3   | 3,209  | 2,139  |
|     | 小泉川           | ●さけ・ます生産地震災復旧支援緊急事業（水産庁）<br>ふ化場復旧工事、親魚採捕用作業船の整備 | H23年度        | H23.8~<br>H24.3   | 99,035 | 66,023 |
|     |               | ●水産業共同利用施設復旧整備事業（水産庁）<br>自動給餌機一式                | H23年度        | H25.1<br>完了       | 48,300 | 32,200 |
|     | 小森            | ●復興交付金事業<br>ふ化場本復旧工事一式                          | H26年度        | H27.10<br>落成式     |        |        |
|     | 水尻            | ●さけ・ます生産地震災復旧支援緊急事業（水産庁）<br>ふ化場復旧工事、親魚採捕器具の整備   | H23年度        | H23.7~<br>H24.3   | 32,200 | 21,466 |
|     |               | ●水産業共同利用施設復旧整備事業（水産庁）水産庁<br>自家発電設備              | H23年度        | H23.10~<br>H23.12 | 9,240  | 6,160  |
|     |               | ●復興交付金事業<br>ふ化場本復旧工事一式                          | H27,<br>28年度 | H29.8<br>完成       |        |        |
|     | 大原川           | ●さけ・ます生産地震災復旧支援緊急事業（水産庁）<br>仮設作業場の整備、関連施設・資材の整備 | H23年度        | H23.7~<br>H24.3   | 25,611 | 17,071 |
|     |               | ●復興交付金事業<br>ふ化場本復旧工事一式（実施中）                     | H30,<br>31年度 | H30~H31           |        |        |
|     | 後川            | ●復興交付金事業<br>ふ化場本復旧工事一式（実施中）                     | H30,<br>31年度 | H30~H31           |        |        |
|     | 合戦谷           | ●さけ・ます生産地震災復旧支援緊急事業（水産庁）<br>受水槽、送水管修繕工事         | H23年度        | H23.7~<br>H24.3   | 7,516  | 5,010  |
|     | 石神            | ●さけ・ます生産地震災復旧支援緊急事業（水産庁）<br>配管等修繕工事（事業中止）       | H23年度        | H23.7~<br>H24.3   |        |        |
|     | 沢渡            | ●さけ・ます生産地震災復旧支援緊急事業（水産庁）<br>配管等修繕工事（事業中止）       | H23年度        | H23.7~<br>H24.3   |        |        |
| 水 系 | 気仙沼市<br>大川水系  | ●さけ・ます生産地震災復旧支援緊急事業（水産庁）<br>海中飼育施設の整備           | H23年度        | H23.11~<br>H24.3  | 11,865 | 7,910  |
|     | 志津川湾<br>水系    | ●さけ・ます生産地震災復旧支援緊急事業（水産庁）<br>海中飼育施設の整備           | H23年度        | H23.11~<br>H24.3  | 4,977  | 3,318  |
|     | 鳴瀬川<br>水系     | ●さけ・ます生産地震災復旧支援緊急事業（水産庁）<br>海中飼育施設の整備           | H23年度        | H23.7~<br>H24.3   | 3,282  | 2,186  |

2. 種卵確保等

| 区分  | 団体名 | 事業名・内容／備考                                                        | 事業年度       | 実施<br>時期        | 事業費    | 国費     |
|-----|-----|------------------------------------------------------------------|------------|-----------------|--------|--------|
| 県増協 | 県増協 | ●さけ・ます生産地震災復旧支援緊急事業（水産庁）<br>放流用種苗の確保に対する支援<br>／32,129千尾×1,575円/尾 | H23年度      | H23.7~<br>H24.3 | 50,603 | 33,735 |
|     |     | ●被災海域における種苗放流支援事業（水産庁）<br>／被災ふ化場の稚魚購入支援<br>海産親魚購入支援<br>協力金減少分支援  | H24年度<br>～ |                 |        |        |
| 県   | 宮城県 | ●さけ・ます生産地震災復旧支援緊急事業（水産庁）<br>調査指導費<br>／旅費、需用費等                    | H23年度      | H23.7~<br>H24.3 | 405    | 270    |

当協会として独自に東日本大震災の影響により、種卵確保が困難な団体並びに種卵確保に協力した団体に対し、種卵確保対策に要した経費に補助を行った。（H25～）



## 県内ふ化場の復興状況

### 気仙沼市本吉町：本吉町小泉川さけふ化場



被災後の状況

復興の進捗状況

### 南三陸町：町営水尻さけふ化場



被災後の状況

復興の進捗状況

## COLOPHON

奥付

宮城県さけます増殖協会

設立40周年記念誌

— 守り育てよう 宮城のサケ・マス —

2019年7月26日発行

発行：宮城県さけます増殖協会

〒985-0812

宮城県七ヶ浜町松ヶ浜字浜屋敷

142番地の1

公益財団法人 宮城県水産振興協会内

TEL 022-253-6177

FAX 022-253-6178

写真提供：宮城県水産振興協会

県内各水系さけます増殖協会

宮城県観光課



